

## 田村のつぶやき 第12号

2023.10.30 発行

文責：島根県立江津高等学校長 田村康雄

### 二兎を追う者だけが二兎を得る

一般に広く知られていることわざと言えは「二兎を追う者は一兎をも得ず」です。二匹のウサギを同時に捕まえようとする者は、結局は一匹も捕まえることができないということで、欲を出して同時に二つの物事をうまくやろうとすると、結局はどちらも失敗したり、中途半端に終わってしまったりするという意味です。また、一つの物事に集中せず、あちらこちらに気を取られることへの戒めの意味を込めて使うことも多いです。確かにこれはこれでそのとおりです。何かを成し遂げようと思ったら、一つの物事に集中して一点突破で全力を注ぐのが一番良いだろうとは思いますが、フォーカスするのは大事。そして、散漫になっちゃいけないというのも納得。

しかし、敢えて言います。「二兎を追う者だけが二兎を得る」。

二兎を得ようと思ったら二兎を追うしかないのです。当たり前の話。最初から二兎を追うことをあきらめていたら、二兎を得ることは絶対できません。二刀流の大谷翔平選手も、投手と打者の両立をめざしたからこそ、今の活躍があります。もちろん二兎を追うことは大変です。人一倍いや人二倍の努力が必要です。みなさんの中には、勉強と部活動の両立に苦労している人もいます。

しかし、敢えて言います。「二兎を追う者だけが二兎を得る」。

二兎どころか、三兎も四兎も追っかけてください。一つの価値観だけにこだわらず、二つも三つも複数の観点でいろいろなことに挑戦して欲しい。我々は日常的に複数のことを並行して考え、行っています。何匹もの兎を追いながら、そのバランスの中で生活しています。しかし与えられた時間は限られています。そのなかで何かに集中的に取り組みたい時、何からやめるのか。勉強時間を削り、睡眠時間を削り、家族との会話の時間を削り、スマホやゲームの時間を確保してはいませんか？何かを成就させるためには、何かを我慢しなければいけないと言われますが、その順番を間違えてはいませんか？

二兎を追うふりをする人もいます。思うように成績が上がらない。原因は本気で取り組んでいないことであり、学習習慣が定着してなくて学習時間の絶対量が不足していることであり、それは自分でもわかっているはず。多くの生徒が前向きに努力していると思いますが、中には、「部活動に時間をとられて勉強時間がとれません。疲れてすぐ眠くなります。」と担任に言っている人はいませんか？「勉強時間が確保できず成績が下がっているので、部活動をやめさせてください。」と部顧問に言っている人はいませんか？

我慢の順番を間違えず、二兎を追うふりをせず、本気で二兎（三兎、四兎）を追って欲しい。

「追いかけるもの」つまり「目標」が見つかったら、あとはその目標を達成するように全力で追いかけるのみです。「やるべき時にやるべきことをする」今一度、自らに声をかけよう。

（次に続く）

4つのC：「Challenge」（挑戦） 「Collaboration」（協働） 「Critical Thinking」（批判的思考） 「Communication」（対話）

【学校評価アンケート（上期）を実施しました】

生徒・保護者の皆様、学校評価アンケートの回答にご協力いただき、ありがとうございました。集計結果を本校ホームページに掲載しておりますので、ご覧ください。また、自由記述欄にはたくさんの貴重なご意見を頂戴しました。今後の教育活動に役立ててまいります。引き続き本校の教育活動にご理解・ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

【学校運営協議会を開催しました】

10月18日（水）に学校運営協議会を開催しました。学校運営協議会は、地域とともにある学校づくり（社会に開かれた学校）を進めるために、地域が「当事者」として学校運営に参画できる仕組みとして、法律（地方教育行政の組織及び運営に関する法律）に基づいて設置するものです。本校では、保護者や地域住民等5名の方々を外部委員として委嘱し、学校運営の基本方針の承認や学校運営に関する意見聴取を行っています。先日の会議では、学校評価アンケートの結果を受けて、委員の皆様からも様々な意見を頂戴しました。生徒・保護者アンケートと合わせ、学校運営協議会での意見も参考にしながら、今年度上期の取組を振り返り、改善に取り組んでいきたいと思っております。